

第25年度 活動報告書



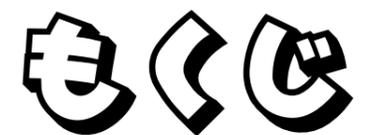
こどもと“共に育ちあう”



特定非営利活動法人
山科醍醐こどものひろば

index

はじめに	1
山科醍醐こどものひろばとは	3
25年度(2023年度)まとめ	5
決算報告	7
収益・費用	8
26年度(2024年度)計画	9
予算	10
げんきスポット0-3	11
わんぱくクラブ	13
町たんけん	14
楽習サポートのびのび	15
食材支援	16
コッペパンより	17
支援のお願い	25
アクセス・お問い合わせ	26



Introduction

はじめに

2023年度も多くの方のご協力により、無事に1年を終えることができました。ありがとうございます。この1年は、理事長の交代があり、役員、職員体制にも変更があったため、事務手続きや事業実施体制も含めて、あわただしく変化をしてきた1年でした。社会としても大きく変化し、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し規制が緩和されたことで、これまでの日常が少しずつ戻ってきています。一方で、年が明けてすぐに能登半島地震が起き、これまでの日常が失われてしまった方も多くおられます。安心、安全に過ごすことのできる日常を取り戻すまでには、多くの時間と多くの方のご協力が必要になります。

これは、子どもを取り巻く環境も同じです。この1年でこども家庭庁が発足し、こども基本法の施行がされ、こどもがまんなかの社会の実現に向けて、国が大きく動きました。また、最新の「国民生活基礎調査」によると、子どもの貧困率も11.5%と大きく下がりました。社会として子どもを取り巻く環境が変化してきているということがわかります。しかし、「学習サポートのびのび」などの活動に参加している子どもたちを見ていると、彼らを取り巻く環境が良い方向に変化してきているとはまだまだいうことができません。安心、安全に過ごすことのできる日常を確保するために、多くの方のご協力が必要になります。そして、その日常の中で変化していくには、多くの時間が必要になります。

そのためこどものひろばだけでなく、会員、ボランティア、地域の方など多くの方に支えていただきながら活動に取り組んできました。しかし、コロナ禍となり、そのつながりが細く弱いものとなってきました。活動が縮小や休止し、これまでと違い、会えないということが続く中で、何かでつながり続けなくてはいけないと思い、親子劇場時代から続く季刊誌「コッペパン」にて、コラム集「こどもと共に育つ」の連載を始めました。コロナ禍が明けてからは、こどもフェスタなどの交流事業を再開するなど、これまでこどものひろばがつくってきたつながりを切らさないことに注力しました。事業報告のまとめでも書かせていただいておりますが、こどものひろばがこれからも進んでいくためには、これまでの縁を改めてつなぎなおすこと、そして新しい縁をつないでいかなければならないと思っています。

団体設立45年、法人化25年が目前に迫ってきています。これまでに出会った縁、そしてこれからつなぐ縁を大事にし、「子どもが真ん中」いて、子どもと共に育つ団体として、これからも歩んでいければと思います。今年度もよろしくお願いいたします。

理事長 品田 真孝

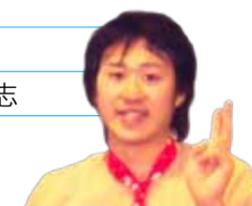


私は今、かかりつけの整骨院のマッサージベッドの上に寝ています。実は最近職業柄かなり身体に負荷をかけてしまう為、ついに腰を痛めてしまいました。そんなベッドの上から見えるのは、おじいちゃん、おばあちゃん、お母さんに連れられてきた子ども、部活帰りの高校生、働き盛りの世代の人たち。本当に様々な世代、立場の人たちが来院しているこの光景、地域の銭湯にどこかしら似ているなと思います。みんなそこでは社会的役割を超えて、ある意味で対等な立場。20年近く知っている者からすると、「ひろば」もそうした場所なのかなと。

振り返れば学生時代にはボランティアとしてキャンプや町たんけん、わんぱくクラブの現場やボランティアコーディネーター等の様々な経験を経て、12年前には第一子が生まれ、今では3人の子どもに囲まれています。会報誌「ひろばつうしん」では、子育てエッセイのようなものを10年間ほど書かせてもらいましたが、“ひとりじゃない”、ということがこんなに心強い事なのだなど改めて感じてきました。また活動を通じて多くの“子どもたちを見守るあたたかな眼差し”が生まれ、広がってきた、そんな山科という地域に本当に支えてもらっていると思います。いつの時代の子どもにとっても、少しでもよりよい環境が生まれていけばいいなと思い関わらせてもらっている所です。

最後になりましたが、2023年度も皆様のご支援とご協力を頂き、無事に事業を進めることができました。誠にありがとうございました。引き続き子どもたちを取り巻く環境を皆様と耕して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

副理事長 林田貴志



新型コロナウイルスの流行から4年経ちました。世間では少しずつ大勢で集まるイベントが増え、流行以前の賑やかさが戻りつつあります。ひろばでも、昨年はこどもフェスタの開催などの、ひろば全体で集う活動を通じて、久しぶりに多くの人たちとまた出会うことができました。ひろばの人に久しぶりに会った時、浦島太郎のような状態に陥りました。というのも、子どもたちや仲間たちは進学や、就職、転職、結婚や出産など、ライフステージが変化し、それぞれの人生を歩んでいました。

ですが、ライフステージは変わっても、ひろばに行くと、どこかひろばらしさは変わらないと感じてしまうのです。私自身もライフステージが変わり、ひろばに顔を出すことは減ったけれども、ひろばの一員という感覚は何故かあまり抜けずにいます。この変わらない“ひろばらしさ”が、変わりゆく人生の中での安心できる支えになっているように感じます。ひろばで出会った子どもたち、仲間たちもそう感じているのではないのでしょうか。

昨年度から理事になり、現状維持のみではなかなか難しいという現実を、より実感したように思います。新しい風をどのように巻き込み、今のひろばらしさとどのように織り交ぜるのか。ひろばは、今まで関わった方々の熱意や力があってこそ続いていると思います。ふと、ひろばを思い出し、一緒にひろばらしさを肌で感じていきたいです。

理事 中上桃子



Mission



山科醍醐こどものひろばとは？

地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。
子どもと大人が一体となってものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ちあいたい”との願いを大切に日々の活動をしています。
あらゆる人にとって自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にします。

- 山科醍醐こどものひろばの事業（活動）は主に7つ、常に子どもたちが真ん中にいます。

例えば・・・



設立

1999年12月設立。2000年3月法人格取得。1980年に当時の「おやこ劇場・こども劇場」運動の中、京都親と子の劇場から独立する形で「山科醍醐親と子の劇場」が発足。地域に根差し、親子で文化に触れる機会を創出することに取り組む。その後、会員限定の取り組みだけでなく、より多くの地域の子もたちとともに活動を創るべく、山科醍醐こどものひろばとして再スタートして、現在44年目をむかえる。

● 理事・監事紹介 氏名(ひろばネーム)



理事長
村井琢哉 (たくぼん)
2023年度7月まで



理事長
品田真孝 (しな)
2023年度8月から



副理事長
林田貴志 (ふあーびー)



常任理事
横関つかさ (よっこん)



理事
大場孝弘 (ばけさん)



理事
小辻寿規 (こつつん)



理事
村井彰信 (むーちゃん)



理事
中上桃子 (ぴーちゃん)
2023年度8月から



理事
栗田佳典 (くりちゃん)



理事
日高秀人 (かず)



理事
梅原美野 (うめちゃん)



理事
永井幸子 (ながいちゃん)
2023年度7月まで



監事
米亨和 (よねさん)



監事
中尾保美 (なかおちゃん)

● 外部団体とも連携しています (一部紹介)

《公共団体》

- ・行政・外郭団体
- ・保育園・幼稚園・児童館
- ・小学校・中学校・高校・大学 など

《ネットワーク団体》

- ・山科区・伏見東 京都はぐくみネットワーク
- ・山科区地域福祉推進委員会
- ・山科区子育て支援連絡会
- ・山科子育て応援団
- ・醍醐子育て支援連絡会
- ・山科区ボランティアサークル連絡会
- ・京都子育てネットワーク
- ・石田小学校・小栗栖宮山小学校、勤修中学校学校運営協議会
- ・要保護児童対策地域協議会(山科区、醍醐) など

《連携団体》

- ・京都子どもセンター
- ・おとくにパオ
- ・子どもNPO子ども劇場全国センター
- ・子育てひろば全国連絡協議会
- ・きょうとNPOセンター
- ・京都地域創造基金
- ・京都市ユースサービス協会
- ・おてらおやつクラブ
- ・社会福祉協議会 など

25th 25年度まとめ summary

新しいつながりをつくりながら、変化をしてきた1年

事業の再開について

コロナによる制限が緩和されたこともあり、休止していた体験活動であるわんぱくクラブの再開、会員向けの交流企画としてこどもフェスタやひろばクリスマス会の実施、オンラインでの子どもの貧困対策事業の事業報告会を実施することができました。日常的に実施してきた子育て支援事業のげんきスポット0-3、体験活動の町たんけん、課題を抱えている子どもをたちのための学習サポートのびのびなどの活動と合わせて、これまで出来ていなかった活動を徐々に増やすことができ、本来の多様な活動があふれるこどものひろばの姿に近付いた1年となりました。

第25年度事業計画の一步目として、久しぶりにこどものひろばの関係者で集まり縁をつなぎなおすことを目的に、通常総会とこどもフェスタを同日同会場で実施しました。以前のような大規模のものではなく、会員、関係者など身近な人向けの小規模での実施を想定して企画しましたが、想定より多くの方が参加してくれました。会場のそこかしこで遊んでいる子どもたちに、多様な世代のボランティアが対応する姿、久しぶりに会った会員さんたちが会話を花を咲かせている姿など、こどものひろばらしい活動の姿というものを再確認できる機会となりました。そのため、次年度以降も交流活動を実施していくことにより、つながりを再度つなぎなおすこと、新しい縁をつないでいくことを計画していければと思います。

一方で、町たんけんはこれまで実施していた形を今年度で終了し、22年間の活動に区切りをつけました。再開をした活動からも、参加者集め、ボランティアの確保など1から進めなくてはならないこともあり、以前のようなカタチでは実施できないなどの意見もあり、次年度以降各活動をどのように運営をしていくかという課題が残りました。

運営財源の確保について

コロナ禍となってから赤字決算が続いているため、経費の見直しを行い、寄付募集を行ってきましたが、今年度も赤字決算となりました。毎年、収支の差を少なくすることが出来ておりますが、黒字決算とすることは出来ませんでした。前年度と比較して、収入面で大きく変化をしているのは寄付金と講師派遣などの自主事業収入の項目です。講演依頼が増加したことや外部団体で話す機会が増えたことにより、寄付金が大きく増加する結果につながりました。

支出面で大きく変化のあった項目は人件費と修繕費(事業管理費計上)です。人件費は、委託事業の中で、ヤングケアラー支援事業を新規事業として実施するにあたり、非常勤職員を1名雇用したこと、最低賃金の増加による時給の変更があったため増加しています。また、修繕費はげんきスポット0-3が、今回害獣被害により7月下旬から8月の初週までの約2週間臨時閉館をすることとなりました。その間に施設の消毒、清掃、害獣対策の費用を修繕費として支出しました。

今回の対策費用としてプロジェクトページによる寄付募集や会員や施設利用者からの直接寄付をいただき、施設修繕費と合わせて乗り切ることができましたが、予定をしていたものではないため、大きな支出となっています。

また、これまでクレジット決済を行ってきたシステム(CANPAN決済)のサービス終了にともない、新規システムの導入(コングラント)を行なったこと、新規の取組として、京都市の実施する「きょうはぐふぁんど」というふるさと納税を活用した仕組みを利用することで、次年度の事業費の一部を確保することを行ないました。

運営体制の変更について

この1年は役員、事務局それぞれの体制変更がありました。

大きな体制変更として、8月に理事長の交代がありました。前年度から少しずつ進めておりましたが、10年間務められた理事長の交代ということで、諸手続きと各所への連絡に時間がかかりました。合わせて長年支えていただいていた理事の任期満了による役員の交代もあり、新規の役員が就任されました。

事務局体制としては、非常勤職員1名が退職されたことから年度が始まりました。また年度の途中で新規事業を受託したため、事業専門の非常勤職員1名を雇用しました。そして、年度末で退職する常勤職員の事業引継ぎのために、新規スタッフの確保を行いました。慌しく、職員体制の変更がありましたが、縁もあり無事に事業実施、事務局運営をすることができました。

しかし、職員数は多くなりましたが、常勤職員が1名減った状態で次年度を迎えることとなり、事業実施、事務局運営に関して、これまでにない運営を行わなければいけないという課題を残すこととなりました。

●ご寄付のお礼

日頃より、山科醍醐こどものひろばを応援いただきありがとうございます。

2023年度は400万円を目標に支援のお願いをさせていただいておりました。2023年度末である3月末時点で目標達成率73%となる合計293万円(※)の支援をいただきました。ご寄付いただきありがとうございました。いただいたご寄付は、法人の運営費だけでなく、子どもの貧困対策事業、げんきスポット0-3の修繕に使用させていただきました。

引き続き、2024年度も400万円を目標に支援のお願いをさせていただいております。2024年度もこれまで同様、子どもたちとの日常をより豊かに創造していきたいと思っていますので、応援よろしくお願いいたします。

※(公財)京都地域創造基金による事業指定寄付、物品寄付による金額も含む



野菜やお菓子などの寄付



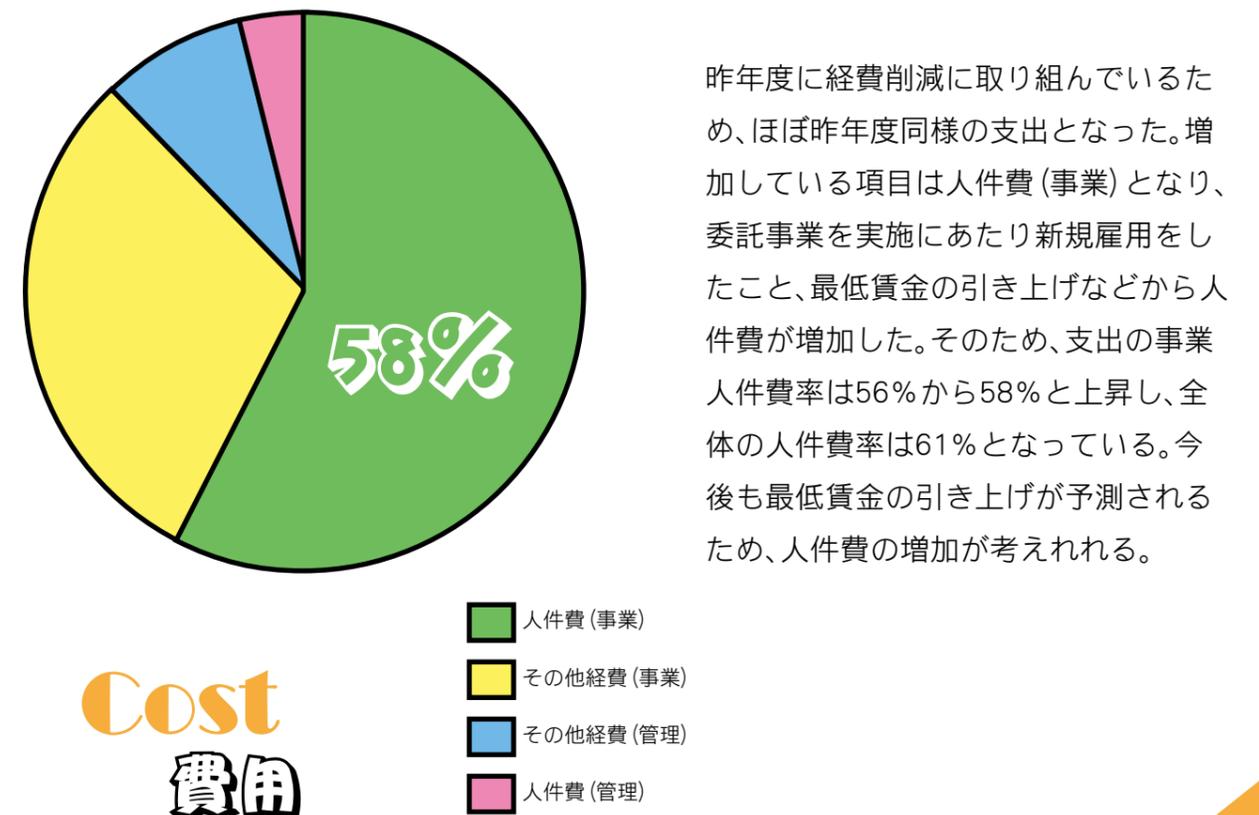
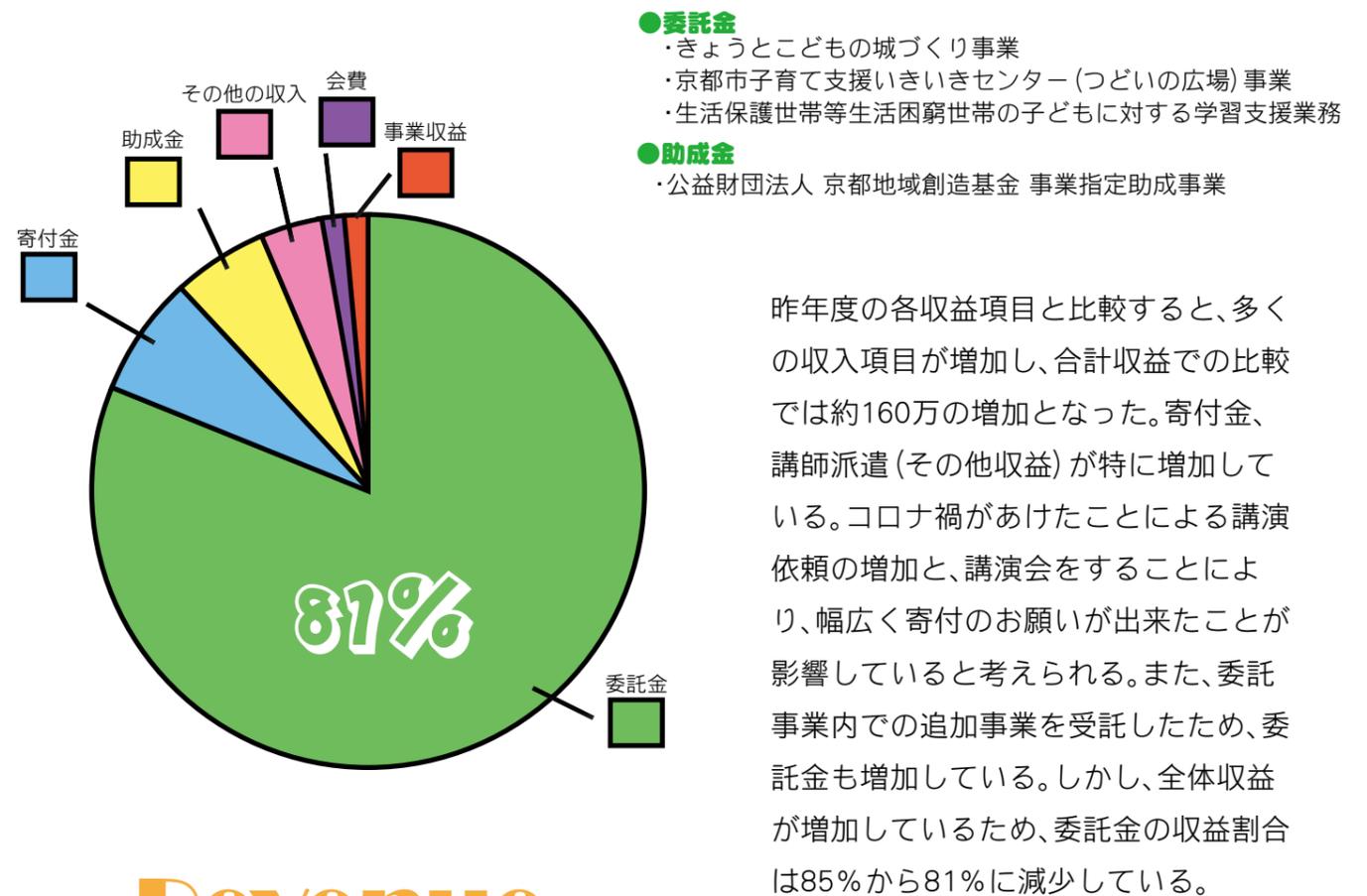
げんきスポット0-3修繕時、
山科事務所を利用して活動していました。

収入の部		金額 (単位:円)
内訳	会費	328,000
	寄付金	1,676,770
	助成金	1,256,500
	補助金	0
	事業収益	282,097
	委託金	19,221,300
	その他の収入	898,915
当期収入合計		23,663,582
前期繰越金		1,760,195

支出の部		
当期支出合計		24,212,986
内人件費		14,768,434
次期繰越金		1,210,791

決算報告

Financial statement



26th Plan 26年度計画

「地域の子どもたちが交流できる機会の創出と活動を届けるための準備を行なう1年に」

昨年度は、コロナ禍が明け、これまで活動を休止していた体験活動や交流活動を行なうことが出来ました。しかし、この4年で変化したスタッフや参加者のライフスタイルに合わせた実施方法、内容に変化をしているため、これまで同様の回数、規模まで実施できているわけではありません。今後も社会の変化に合わせて活動も変化をしていくべきですが、少なくなった体験、交流の機会は創出していきたいと思います。

そのため、今年度も引き続き、体験活動、交流活動の充実をはかると共に、事業を継続実施していくために、運営体制の強化や資金の確保を行なっていく必要があります。以下の4項目に分けて、この1年取り組んでいきます。

1. 子どもの体験活動の検討
2. 交流企画の実施
3. 運営体制の構築
4. 継続した運営財源の確保

1. 子どもの体験活動の検討

再開した体験事業を継続実施すると共に、昨年度で終結した事業を今後どのように実施していくのかを検討します。体験活動への子どもからのニーズもあるため、活動内容、実施体制を早急に検討し、実施します。合わせて、体験活動に参加するボランティアが少なくなっているため、活動を実施していくためのボランティアの確保と育成を行なっていきます。

2. 交流企画の実施

昨年度は会員、関係者向けのこどもフェスタを実施することができました。また、クリスマス会を9年ぶりに実施するなど、コロナ禍で実施できていなかった会員や各活動、関係者との交流できる機会となりました。その中で、参加者からの声もあり改めてこどものひろばらしい活動の必要性を感じました。そのため、今年度も会員、関係者が交流できる企画の実施をしていきます。

3. 運営体制の構築

事務局の運営体制がこれまでと異なり、常勤職員が減り、非常勤職員の人数が増えることとなります。様々な働き方をする職員が増えることにより、事務局内だけでなく、事業間でも情報共有を密にできる体制を構築します。また、今後も様々な働き方に対応できる体制について検討していきます。

4. 継続した運営財源の確保

この4年間赤字決算が続いておりますが、経費の見直しを行なうことにより、赤字額を少なくしてきました。その中で昨年度は寄付金収入、自主事業収入が増加したことで、これまで以上に収支の差を少なくすることができましたが、赤字決算は続いております。今年度はさらに収支の差を少なくし、事業の継続実施と充実、そのための運営体制強化をするための財源を確保してだけでなく、今後大きな社会変化が起きた時に、それに耐えうる財政基盤を強化していきます。

収入の部		金額(単位:円)
内訳	会費	330,000
	寄付金	1,300,000
	助成金	1,200,000
	補助金	0
	事業収益	734,245
	委託金	19,057,300
	その他の収入	1,033,030
当期収入合計		23,654,575
前期繰越金		1,210,791
支出の部		
当期支出合計		23,554,245
内人件費		14,788,444
次期繰越金		1,225,921

Budget
予算

Genkispot 0-3

【参加の対象】

0～3歳児までの子どもと保護者



【活動の目的】

0～3歳くらいまでの子どもと保護者が自由に遊びに来られる場として、無料開放し、以下の取り組みを中心に子育て支援事業を行う。

- 1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- 2 子育て等に関する相談、援助の実施
- 3 地域の子育て関連情報の提供
- 4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- 5 地域の子育て力を高める取組の実施

「げんきスポット0-3」を飛び出して地域の場での支援事

【感想】

つどいの広場として火曜日から土曜日の10時から16時の間に、予約なしで自由に来て自由に帰ることが出来る来やすさと一戸建ての入りやすさで自宅にいるような空間が、保護者の方にとっても気楽に来ていただける要因だと感じています。「施設内やおもちゃの清潔が保たれている」「スタッフの対応が親切で、話しやすい」などのうれしい感想もあり、「げんきスポット0-3」の開設の精神を大切に、これからも来館者が安心して過ごせる場を提供していきたいと思ひます。

最近では、0歳児の来館が大変増えてきています。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問案内していただいているのも大きな要因になっていると思ひます。今後も行政との連携を充実していきながらよりよい環境作りをしたいと思ひます。研修の場では乳幼児の体や育ちの課題がいろいろと指摘され、育児をめぐる環境も変化しています。スタッフの専門性や特技も生かしつつ、保護者への適切な情報提供ができるようにしていきたいと思ひます。

「はじめの一步」・「育休復帰サポート講座」などを実施し、いろいろな角度から来館者を応援し、よりよい子育てについてみんなで考えていけました。

0-3の安定した運営のため、施設の安全管理と、出張ひろばの実施場所の検討、スタッフの補充についても計画的に考えていきたいと思ひます。

今後も来館者の声を聞きながら、地域に根差した活動や保護者の方にも子育て力・地域力を持っていただけるような0-3独自の取り組みを考えていきたいと思ひます。



【成果】

地域での認知度も少し上がり、音羽川学区の回覧板や口コミ、インスタを見て、利用している方と一緒に来館していただけるようになりました。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問で紹介してもらいましたと来館される方もありました。来館者がお友達を誘ってくださることも多く、またパパの登録と来館も増えました。ベビーマッサージや「はじめの一步」にパパも参加したいといわれることもあり育児に積極的にかかわるお父さんが増えたことを実感します。ママだけでなくパパにとってもホッとできる場所にしていければと思ひます。

週に3回、無料で楽しめるプログラム（「おはよう体操」や「絵本となかよし」など）を設定する日、有料のベビーマッサージやママワークの日などを織り交ぜながら企画を実施し、同年代の子育てをするママ同士が、ゆっくりほっこりできる場となっていました。0歳児の参加が増え、親子のふれあい・憩いの場になっているのがよかったです。

おはよう体操ではみんなで一緒に体操し、企画後のママのおしゃべりタイムを楽しみにされ多くの参加者がありました。「はじめの一步」「育休復帰サポート講座」などの連続講座でも参加者が集まり、子育てについてゆっくり考え今後の育児に生かす内容を提供出来ました。講座を機会に参加者同士で仲良くなり、その後も交流されている姿が見られています。コロナの影響でやめていた「ランチタイム」を再開しました。「お昼を食べてゆっくり過ごせると」喜んでいただいています。

充実事業として現施設だけでなく外部に出向くようになり1歳児後半から活発に動き回る子にも場の提供ができました。

今年度夏季に害獣による被害があり、半月余り臨時休館して業者に駆除をしてもらいどうにか再開することができました。スタッフに迷惑もかけ、利用して下さっている来館者の皆さんにも夏休みの遊び場として必要とされている期間の閉館となってしまいました。「ひろば」本体による支援のおかげで再開後は通常の運営ができました。秋以降また、たくさんの方に来館してもらおうことができましたが今後も施設の安全管理の大切さを痛感する事態でした。

●施設の害獣被害とご寄付のお礼

春先から少しずつですが、天井裏を害獣が移動するようになり、7月初旬から活動中に足音が響くようになりました。害獣による衛生環境の悪化もあり、子どもたちが安心して来館できなくなったため、業者に害獣駆除を依頼しました。天井裏も含めて、施設全体の進入経路の確認と経路を塞ぐ等の処置を実施、合わせて全体の清掃、消毒を行ないました。

この作業が終わるまでの間の7月下旬より約半月、げんきスポット0-3を休館せざるをえませんでした。げんきスポット0-3が休館中は、少人数の予約制で、山科事務所の一室と駐輪場を臨時開放して、水遊びなどをしながら活動をしました。

修繕作業後は無事に通常開館ができるようになりましたのでほっとしています。

この施設の修繕、清掃、消毒を実施するにあたり、ご寄付の依頼をさせていただき、皆様から〇〇円の温かいご支援をいただくことができました。本当にありがとうございます。

今後も「子どもも大人もホッとできる場所」「いつでも気軽に行ける『屋根のある公園』のような施設」を目指して日々努力しています。ご支援いただきありがとうございました。（げんきスポット0-3職員一同）



【参加の対象】

年少～小学3年生

【活動の目的】

親から離れ、異年齢のグループで野外活動を通して自然に触れ仲間と共に協力し野外炊事など作る喜びを体験し、家、学校、幼稚園ではない居場所として子どもらしい子ども時代を過ごしてほしいと願って取り組んでいる。

【参加の対象】

チーム参加対象は小学生(全学年)
事業対象は区内の全小学生
希望する小学校の出前授業対象児

【活動内容】

1. 地域を発見する活動・・・7回
2. 文化を知る活動・・・1回
3. 報告書の作成

【活動の目的】

- ①ひとりひとりの子どもが、町たんけん活動の中で、自分の力で地域の良さをみつける。
- ②「歩こう！だいすき山科ガイドブック」「山科かるた」「山科かるた双六」「報告書」などを通し、この町が好きだという子どもを一人でも多く増やす。そのために、地域を知る資料を地域の全児童に配布するとともに、小学校に出向き、授業時間を使って、その良さを伝える。
- ③地域が、ひとりひとりの子どもの生活や学びの支えになるように、まちづくりに寄与する地域団体のネットワークを大事にし、連携を取り合い、よりよい地域を目指す。



町たんけん

Machitanken

【成果】

- 今年度は、年間7回の活動を実施した。
- 定員を上回る参加者と、子どもたち中心の活動を行うことができた。

【目的達成について】

- 今年度も、今までに出会ったことがない子どもたちの参加も多く、活動の中で、それぞれの子どもが、おだやかに楽しむ光景が広がった。
- 幅広いスタッフ構成で、子どもたちも多様なスタッフとのかかわりを楽しむことが出来た。
- 参加費は低額に据え置き、参加しやすい活動形態を模索するなど配慮した。
- 出来る限り、1回の時間数(5～6時間)を長くし、ゆっくり、しっかりとかわれる活動となるようにした。
- 財政的には助成金の申請などをしなかったこともあり、大幅な赤字となったが、寄付金を受けて乗り切った。そのこともあり、参加者の希望を大事にして、リクエストの多い内容で活動を行うことができた。



【感想】

- 22年に及ぶ活動を無事締めくくることが出来、ほっとしている。
- この長い期間、こどものひろば本体、大勢のボランティアスタッフ、講師の先生などに支えて頂き、目指す姿を追い求め続けられたこと、心より感謝している。
- この活動は地域のことを好きになることが主眼であり、ずっと必要な活動だと思っている。この活動を楽しみにしている子どもたちのためにも、頑張っ続けていただけるとのこと、有り難く思っている。



Wampakuclub

わんぱくクラブ

【感想】

コロナ禍でしばらく休止していたわんぱくクラブを6月より再開することになりました。今の子ども達や親御さんがどんな活動を望まれているのか、また募集方法もWEBからの方がいいのかとかの不安はありましたが、久しぶりの再開ということで事務局やげんきスポット0-3にもご協力頂き募集を行ないました。2023年度は全3回の活動でしたが3回全部参加してもらった方もあり、リピーターとして続けてもらえるような活動を創っていきたいと思っています。課題としてはスタッフ不足で新たなスタッフ、ボランティアも募集していきたく考えています。

【活動内容】

①親子であそぼう@みささぎの森(6/4)
今回は親子で参加とし5組の親子の参加がありました。年中から小学3年生までの子ども達と保護者の方々とスタッフ8名(先発隊含む)で集合場所から歩いて向かいました。

自己紹介の場面では少し緊張もありましたがみんなすぐに打ち解け思い思いの場所でのびのびと遊んでいました。今回はみささぎの森の山に山姥が住んでいる設定で保護者の方がつかまり、山の神と子ども達で葉っぱをかけて山姥を退治するというちょっとした小芝居で大盛り上がりでした。

その後ツリーハウスに登ったり、せせらぎの川でカニや生き物を探したり、竹ボーリングをしたり野山を走り回ったりとみんな自然を満喫しました。

②はんごうすいさんをしよう@みささぎの森(10/22)
まずは親子でみささぎの森の良さを知ってもらい、その後は子ども達だけの活動で初めて会う人でも班分けですぐに打ち解け、子どもたちのやりたいことに分かれ初めてすることや、得意なことなどでみんなで協力して飯ごうすいさんの飯ごうのご飯、カレーも美味しくできました。自由遊びではのびのびと走り回り子どものエネルギーをすぐ感じる事ができました。

③やきいもパーティー@みささぎの森(1/28)
子ども16人、ボランティア5人の21人が3班に分かれて作業をしました。各班スタッフと一緒に火起こしをしましたが、なかなか火がつかず、落ち葉をかけたり、うちわであおいだりして頑張っ火起こしをしました。焼きもちが蒸しあがるまでに、少し時間がかかるのでその間に豚汁でお昼ご飯を食べました。その後、みささぎの森にある、切り株やタイヤブランコなどでいっぱい遊びました。ホクホクの焼きもちが出来上がり、皆であつあつ言いながらみんなで食べました。



【参加の対象】

主に山科区・伏見区醍醐地域の小学校1年生～中学3年生:

@ら～にんぐ(学習)、@らいふ(生活)、@ひろば(余暇)、@ほーむ(家庭訪問型)

主に伏見区醍醐地域の小学生:@だいが(生活・学習・余暇・食材支援)

高校生以上(活動を卒業したメンバー):@たいむ



【活動の目的】

発達課題、不登校、子どもの貧困、ネグレクトなど「困り」を抱え、自信が持てない子どもたちの生活・学習・余暇のサポートに取り組む。年齢の近いサポーターがマンツーマンを中心として関わりながら、子ども1人1人に合ったサポートに取り組むことで、子ども自身が自信を持つことや将来に向けての選択肢が広がることを目的としている。

また、法人内の他の事業に参加したり、本法人以外の団体や地域ともネットワークを作り、子どもたちが安心して過ごせる場所を広げることも目指していく。

【活動内容】

@らいふ→平日の15時～21時に実施

@ら～にんぐ→平日の週1回120分程度で実施

@ほーむ→利用者の希望日程(週1回90分程度)で実施

@ひろば→月に1回程度実施

@たいむ→のびのびの活動、地域イベント等でのボランティア活動/同窓会

@だいが→平日15時～19時、宿泊活動も実施

・中学生勉強会(委託事業)→毎週月曜日・火曜日・木曜日実施

・専門家が入ったサポーター向けの「ふりかえり会」の実施

・保護者面談

・ケース会議参加



楽習サポートのびのび

【成果】

子どもたちにとって「落ち着ける場所」「充電できる場所」として、この1年も開き続けることができました。子どもたちの日常の中では「しないといけないこと」が多いようで、活動に来たら学校や家とはまた違った姿のようです。サポーターに好きなことを話したり、自分の世界に入って遊んだり、日頃溜まったストレスを出したり、同じ子どもでも毎週の活動で見る姿は変わります。長い目で見て、活動当初に来た時と比べるともちろん成長しているのではありませんが、それは活動内外でいるんな経験を重ねて、他者との関わりにより楽しみを持つことができている気がします。サポーターの名前を呼んで「〇〇したい!」と一緒にしたいことを言葉にしたり、疲れているサポーターを見たら「大丈夫?」と声をかけたりと、他者を思う気持ちが育まれているのを感じます。

【感想】

のびのびの活動を通して「特別扱い」をしてくれる存在がもっとほしいと感じる瞬間が多いです。のびのびの活動自体は、一緒に話をしたり、遊んだり、ご飯を食べたりと特別なことはしていないはずなのですが、そもそも話し足りなかったり、遊び足りなかったり、ご飯を食べ足りてなかったりします。決して家庭事情だけの問題ではなく、コロナ禍を通して多様な人と関わる機会が少なくなったことも影響しているように感じます。子どもたちの話を聞いていると、どうしてこんなに気持ちを抑えているんだろう、溜め込んでいるんだろう、我慢しているんだろうと思います。だからこそ、この活動だけでもとサポーターといつも悩みながら試行錯誤を重ねています。子どもたちにとって今と未来に楽しみを持てるように、この活動を続けていきたいところです。

食材支援 food aid

【活動の概要】

昨年度に引き続き、経済的に困窮している家庭だけでなく、コロナ禍で家計が切迫した家庭なども対象に食材、衛生用品、日用品の支援を継続的に行ないました。活動に来ている子どもへの手渡し、郵送、フードパントリーなどの様々な方法により、多くのご家庭に支援することができました。



【ご支援いただきありがとうございます】

食材、衛生用品、日用品、衣類の支援を実施するにあたり、以下の助成金、寄付金、物品寄付を活用させていただきました。ご支援いただきありがとうございました。

- ・近畿ろうきん 社会貢献預金「笑顔プラス」
- ・公益財団法人京都地域創造基金「事業指定寄付」
- ・認定NPO法人おてらおやつクラブ お菓子、食材、物品寄付
- ・こども食堂サポートセンター(運営:一般 社団法人全国食支援活動協力会) 餃子の王将「お子様弁当」
- ・ノートルダム女学院 中学高等学校 衣類の寄付
- ・その他、個人の方多数

Activity report

事業
報告

活動
レポ



活動 ピックアップ レポート

(2023年3月~2023年5月)

開催しました!!

こどもフェスタ 2023

@みささぎの森

2023年5月21日(日)

2023年5月21日(日) 12:00~15:00 でこどもフェスタ 2023 を開催しました。場所はみささぎの森で、午前中は同会場で「第25年度通常総会」もしていました。(総会の報告はp5で)

今回のこどもフェスタはたくさんの方に参加してもらった従来のこどもフェスタではなく、コロナ禍で対面での活動が実施できていないため、会うことができていない会員や、活動参加者、家族、関係者、団体の方が久しぶりに会って、交流することを目的として開催しました。当日は天気も良く、子ども、大人を含めて100名を超えるイベントとなりました。

久しぶりにみなさんに会うことが出来て、大変楽しい時間となりました。こどもフェスタに参加していると、山科醍醐こどものひろばらしい活動だと感じます。これから少しずつ交流できる活動を増やしていく予定です、ぜひご参加ください。

食事の時間

三つ葉に乗ったトン汁



食事の時間では、ご飯とトン汁を用意しました。(無料) ご飯をみんなで食べてから、みささぎの森で思いっきり遊びました!!



竹の筒にボールをポーン♪



竹の弓矢でのあて



竹を使っでの工作



ピッコリーナによる演奏会

袋いっぱいにおちばをあつめて!



遊びコーナーは竹ボーリング、弓矢、シャボン玉、玉入れ、宝探し、おちばひろい、工作がありました

遊びの時間

4/2 山科スイーツフェス 参加

4月2日(日)に、本願寺山科別院(西御坊)さんにて行われた「山科 SWEETS FES」にキッズコーナーとして遊びコーナーと授乳室を担当しました。

遊びコーナーでは、こどものひろばがイベントブースで出店する時におなじみの缶詰みと、山科かるたを広げて一緒に遊び、授乳スペースでは案内や補助を担当しました。

コロナが落ち着いてきて、久しぶりに大き目のイベントだったということもあり、山科じゅうから集まった美味しいスイーツやご飯の出店ブースには、常時長い行列ができていました。

家族連れで来られている方も多くおり、キッズスペースも常に賑わっていました。美味しいものと桜を楽しむことの出来るイベントとなりました。



5/21 第25年度通常総会 開催

2023年5月21日(日)にみささぎの森にて、山科醍醐こどものひろば「第25年度通常総会」が開催されました。こどもフェスタと同日開催のため、コロナ禍になる前くらいの参加者となりました。参加者が多くなり、コロナ禍となつて会えていなかった正会員の方に3年ぶりに会うことができた総会でもありました。

議案では法人事業報告、決算報告、事業計画、予算がそれぞれ報告され、審議されました。昨年度報告の中では、赤字決算が続いている現状や、経費を削減してきたことなどが報告されました。今年度の計画では、こどもフェスタやわんぱくクラブを実施すること、コロナ禍が落ち着き少しづつ活動が再開していく中で会員、関係者等の交流をしていきたいことが提案されました。

また、現役員の任期が7/31までのため、第25年度、第26年度の新規役員の提案もされ、承認されました。そのため、8/1からは新しい役員体制となります。

最後に、審議が終了した後に、昨年度実施した「げんきスポット0-3」「町たんけん」「楽習サポートのびのび」の活動について、担当者からそれぞれ活動報告をしてもらいました。各活動の報告は、議案書の最後に掲載しておりますが、読むだけではなく、担当者から活動状況を聞く機会があるとより活動の様子や状況がわかりやすかったです。

今回の総会は、初めての開催場所、こどもフェスタと同時開催など新しい試みも含めて、ドタバタとなりましたが、本当に久しぶりに会員さんと出会えたこと、こどものひろばらしい総会になったことあり大変良い総会となりました。

※第24年度事業報告、決算、第25年度事業計画、予算は、法人ホームページにアクセスいただき、団体詳細情報よりご覧いただけます。



コッペパン184号より

理事長が交代しました

7月31日で第24年度(2022年度)の役員の任期が満了となり、8月1日より第25年度(2023年度)の新役員体制となりました。そのため8/1(火)に開催した理事会において、理事の互選による協議の結果、理事長及び副理事長、常任理事が決定いたしました。各役は以下の通りです。

理事長 品田真孝 副理事長 林田貴志 常任理事 横関つかさ

第25年度、第26年度においては、このような体制でまいりますので、よろしくお願いいたします。
10年間理事長を務めました村井からは退任について、新しく理事長に就任いたしました品田からは就任についてそれぞれの挨拶を掲載させていただきます。

これまで山科醍醐こどものひろばに関わってくださった皆様

この10年間理事長として団体運営について取り組んできましたが、このたび任期満了となり退任させていただくこととなりました。さまざまな形で活動を支えてくださったおかげでなんと大きなトラブルもなく子どもたちに活動を届ける組織を継続することができました。心から感謝いたします。

この10年は子どもが置かれる社会環境も、NPOという組織体の活動環境も大きく変化しました。結果、複雑な対応や事務局の体制整備を年々変えていく必要があることとなりました。多くの方に作業をご負担いただくことや連携先の皆様にも協力いただくことが増えることになりました。一方では最後の3年はコロナの影響もあり、従来からの会員やボランティアの皆様に取り組んでいただいていた活動がとても少なくなってしまうことが心残りとなっています。

10年を振り返ると、思い描いた通りのことができた年は一度もなく、多くの方々の協力でなんとか乗り越えたというのが正直な気持ちです。理事長退任後は新体制や、ここから新たに生まれる活動やそれを支える事務局を後方から応援しつつ、これまでの10年で培ったことを社会や地域により還元できるように動いていく予定です。今後とも山科醍醐こどものひろばをよろしくお願いいたします。10年間ありがとうございました。

村井 琢哉

この度、第25年度、第26年度の理事長に就任することとなりました品田真孝(しなだまさゆき)と申します。知っておられる方も、知らない方もいらっしゃると思いますので、少し自己紹介をさせていただきます。

私が山科醍醐こどものひろばに初めて関わったのは、2007年大学1年生の時でした。当時ボランティア説明の対応をしてくれたのは、前理事長でもある村井さんだったことを覚えています。ひろばではわんぱくクラブやサマーキャンプなどにボランティアとして参加してきました。大学卒業後はこどもフェスタなどのイベントボランティアとして年に数回関わるくらいでしたが、もっと子どもの居場所づくりがしたいと思い、2014年に職員として入職しました。入職後は学校と連携して放課後の遊び、学習、居場所の支援事業を行ってきました。その後2016年からは事務局長として事務と労務に携わり、現在にいたります。

ひろば暦17年目となり、これまでと違う立場と視点でチャレンジしていくことに不安もありますが、育ちの循環がある組織だからこそ、これまでこどものひろばを創ってきた方の思いを受け継ぎ、そこに今度は私自身の思いも詰め込み、それを次の世代に繋いでいくことを一つの目標にやっていきたいと思っています。

まだまだ、こどものひろばの中では若輩者ではございますが、今後も皆様にはお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

品田 真孝



活動ピックアップ レポート

(2023年6月~2023年8月)

活動
レポ

6/4(日) わんぱくクラブ「おやこであそぼうみささぎの森」

コロナ禍でしばらく休止していたわんぱくクラブを6月より再開することになりました。今の子どもたちや保護者さんがどんな活動を望まれているのか、また募集方法もWEBからの方がいいのかと不安はありましたが、久しぶりの再開と言うことでひろばや0-3にもご協力頂き第1回目を6月4日みささぎの森で開催しました。

今回は保護者と一緒の参加とし5組の参加があり年中から小学3年生までの子どもたちと保護者の方々とスタッフ8名(先発隊含む)で集合場所から歩いて向かいました。自己紹介の場面では少し緊張もありましたがみんなすぐに打ち解け思い思いの場所でのびのびと遊んでいました。

イベントとしてみささぎの森の山に山姥が住んでいる設定で保護者の方がつかまり、山の神と子どもたちで葉っぱをかけて山姥を退治するというちょっとした小芝居で大盛り上がりでした。お昼には保護者の方々も子育ての話などで和やかに交流されていました。その後ツリーハウスに登ったり、せせらぎの川でカニや生き物を探したり、竹ボーリングをしたり野山を走り回ったりとみんな自然を満喫し怪我もなく第1回目を無事終了しました。

第2回目は10月22日みささぎの森で飯盒炊さんを予定しています。



山姥に捕まった保護者さんたち



ツリーハウスに登ったり



カニや生き物を探しました

事業報告

近畿ろうきん寄付金贈呈式、組合への学習会を実施しました

2018年度より近畿ろうきん様の社会貢献預金(笑顔プラス)という仕組みを通して、子ども支援、貧困対策に対してご寄付をいただいております。今年度は217,608円のご寄付をいただきました。

昨年は、ろうきん肥後橋ビルに出向き、寄付金の贈呈式に参加してきましたが、今年度は残念ながら事業の都合上出席できず、山科事務所にお越しいただきました。今年度もいただいた寄付金を活用して、子どもの貧困対策事業を実施しています。委託事業だけではカバーできないことも多い子どもの「困った」について、皆様からいただいた寄付金を使用させていただいております。引き続き、ご支援ご協力いただければと思います。



また、7/7(金)トトハウスにて、近畿ろうきん労働組合京都支部USR委員会の学習会を担当しました。USRとは「Union Social Responsibility(労組の社会的責任)」の頭文字をとったもので、労組が果たすべき社会的な役割の実践をされているそうです。今回は「笑顔プラス」で支援をしている団体であるこどものひろばに子どもの貧困について学ぶために来られました。貧困のイメージ、子どもの貧困の現状、自分達ができることなどをワークショップを交えながら行ないました。



※社会貢献預金(笑顔プラス)は、「預金者の寄付負担(金利引下げ分の利息相当額)」と「ろうきんの拠出金」の合計額をNPO・市民団体に寄付を行う定期預金です。詳しくは右のQRコードから近畿ろうきん様のページにアクセスしてご確認ください。



コッペパン185号より



活動ピックアップレポート (2023年9月~2023年11月)

11/21 (火) 子どもの貧困対策事業報告会 開催

11/21 (火) 19時~21時で「子どもの貧困対策事業報告会」が開催されました。コロナ禍でなかなか報告ができていなかったため、今回、応援、支援いただいている皆様にお礼とご報告ができればと思い、事業担当者により企画がされました。

平日の夜にオンラインでの開催でしたが40名近い方のお申込、参加がありました。ご参加いただきありがとうございました。今後も、定期的に研修会、報告会を開催できればと思います。



当日のグラフィックレコーディング



オープニングは新旧理事長のトークからはじまりました

2022年度を振り返りながらトークつづきは12/12の雑談トークで!

2022年度の報告書だけでは書き切れなかったことを少しでも多く伝えることができました。

事業担当者からは現場の様子をお伝えしました。

参加者にはグループワークもしてもらいました。

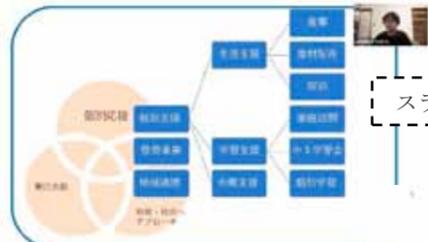
グループワーク

時間目安: 25分程度
【お題】
今後、子どもの貧困問題をよりよくしていくために
「今後、ひろばと一緒にチャレンジしたらおもしろそうなこと」
「皆さんが思う子どもを取り巻く課題」

自己紹介、感想・質問も含めてよろしくお願いします!
時間、興きに行く方も大丈夫です。

お題は・・・
・ひろばと一緒にチャレンジしたらおもしろそうなこと
・参加者が思う子どもを取り巻く課題

研修テーマとして取り上げて欲しいこと
・失敗談、ヤングケアラー、非行問題
ネットワークなど



スライドを用いながら事業説明

よくある質問だけでなく参加者からの質問も募集して回答しました

参加者アンケートより

- ・地域に根付いた活動だと思った。
- ・久しぶりに子どものひろばの活動を知ることができた。
- ・もっとスタッフ、ボランティアの話が聞きたかった。
- ・継続的に実施してほしい。

11/5 地域イベント「やませいフェスタ」に参加

コロナ禍が続き開催されていなかった地域イベント「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」の中で山科青少年活動センターが実施する「やませいフェスタ」が数年ぶりに復活したということで、山科醍醐こどものひろばは体験コーナーとして「スーパーボールすくい」のお店を出店しました。当日は、11月とは思えないような気温で汗ばむような良い天気ということもあり、本当に多くの人で賑わうイベントとなりました。

出店したスーパーボールすくいのコーナーでは、普段こどものひろばの活動に参加している子どもに1日子ども店長として参加してもらい、値段やルール設定、お客さんへの案内、袋詰め、売り上げ計算などスタッフと一緒に行いました。ずっと行列が絶えずてんやわんやしておりましたが子ども店長からは「ここのやるから休憩行ってきて〜」「ボールの補充よろしく!」ときびきびとした指示が飛んでおりました。時々、ジュースやご飯の差し入れ、職員・サポーターからの応援もあり、時間いっぱい使って無事目標人数売り切ることができました。

1日子ども店長からは「めっちゃ楽しかった!」「次はもっとやりたい!」との感想が出てきました。

コロナ禍で体験活動が少なくなりました。そんな中で様々な社会環境により、その少ない体験活動の機会を経験できない子どもたちが、小さな社会体験を積んでいくことで、「自分できるかも」と自信に繋がったり、「楽しかったな」と思える思い出となっていけたらと思います。



9月~10月 法人報告書、活動報告書が完成しました

9月~10月にかけて「げんきスポット0-3」、「子どもの貧困対策事業」、「山科醍醐こどものひろば」の2022年度活動報告書が完成しました。そこで、それぞれの報告書に書かれている内容を紹介します。

第24年度(2022年度)法人活動報告書は事業報告、決算報告だけではなく、季刊紙であるコッペパンがカラーで読めたり、新旧理事長へのインタビューなどが掲載しております。また、コッペパンのコラム集「こどもと共に育つ」の第1回目の記事が読めるリンクなどもあります。

子どもの貧困対策事業の活動報告書は、ボランティア、スタッフ、学校の先生などからコメントをもらいました。また、この事業を様々な面から支えてくれている寄付者の方へのインタビュー、10年間を理事長としてみてきたこの事業についての質問なども掲載しています。昨年度発行した事業レポートと合わせてご覧ください。

げんきスポット0-3の活動報告書は今年度初めて作成しました。かわいいイラストと写真、スタッフからのコメントを掲載しています。来館者さんや地域の方だけでなく初めて施設を利用しようかと考えている方に、げんきスポット0-3ってどんなところかを知ってもらえるようにと作成されました。

一部報告書は以下の通り、Webでの公開をしておりますので、ぜひHPにアクセスいただきご覧ください。

※「第24年度法人活動報告書」、「2022年度子どもの貧困対策事業報告書」は山科醍醐こどものひろばのHPにアクセスいただき、団体詳細情報の添付資料よりご覧いただけます。





活動ピックアップレポート

(2023年12月~2024年2月)

12/10 (日) ひろばクリスマス会@2023 開催

12/10 (日) にひろばクリスマス会を開催しました。コロナ禍でなくなった会員、活動間交流を復活させていこうと思い、理事長発信で企画しました。前回のクリスマス会の開催が2014年ですので、実に9年ぶりです。

この日は山科青少年活動センターの大会議室を借りて、飲み物やお菓子を食べながら、レクリエーションやスライドショー、ひろばクイズを行ないました。

この日の為に、2014年のクリスマス会で流したスライドショーに9年分の写真を追加してバージョンアップをさせたものを作成し、参加者と共にこどものひろばになってからの23年間を振り返りました。

その後、各活動から考えていただいたひろばクイズを出題し、参加者全員が頭を悩ます姿も・・・。

全50問のひろばクイズ。その中から、4問だけ下に記載しておりますので、ぜひ回答してみてください。今後、問題を少し改定して、広く解答してもらえるようにしたいと思います。

最後に、長い間理事として団体を支えていただき、この7月末に任期満了で退任されたお二方に花束をお渡しし、イベントを終えました。参加いただいた皆様ありがとうございました。今後も、少なくなった交流企画を実施していきたいと思っております。



『ito (イト)』というボードゲームを使ってレクリエーション



21分弱ある2023年バージョンのスライド

この時のテーマはおにぎりの具数字が50の時、みなさんなら何の具にしますか？



長く理事として法人を支えていただいたお二人に、新理事長から花束の贈呈。ありがとうございました！



新旧理事長によるトークイベント12/12 (火) の団体設立記念日に新旧理事長によるトークイベントも開催しました。

10年間理事長を務めた村井の振り返りと、新理事長品田を中心に2022年度から2023年を振り返りました。1999年当時の話やその後どういった流れで活動展開してきたのか、また理事長同士の初対面の印象などいろんな角度の話題でお話していきました。前身団体から山科醍醐こどものひろばと姿を変え、24年目を迎えることができました。今後も応援よろしくお願ひします。

ひろばクイズより

1. こどものひろば設立当時の年齢別の体験活動3つのクラブの名称は何？
2. こどものひろばのロゴに写っている子どもの人数は？
3. 第24年度活動報告書の表紙は何？
4. 山科醍醐こどものひろばとなって初めて発行されたコッペパンは第何号？

答えは裏表紙にあります。何問正解できましたか？

1/28 (日) わんぱくクラブ「焼いもパーティー」

わんぱくクラブは1月28日(日)みささぎの森で「焼いもパーティー」をしました。子ども16人、ボランティア5人の21人が3班に分かれて作業をしました。各班スタッフと一緒に火起こしをしましたが、なかなか火がつかず、落ち葉をかけた、うちわであおいだりして頑張って火起こしをしました。



わんぱくクラブでの焼いもの作り方は、

- ・さつまいもを濡れ新聞紙に包みその後アルミホイルで包む
- ・おき火になったたき火の中に入れ、もみがらをかけ蒸し焼きにします。

蒸し焼きにすることでお芋がふっくら甘くなります。蒸しあがるまでに、少し時間がかかるのでその間に豚汁でお昼ご飯を食べました。まだまだ時間があったので、みささぎの森にある、切り株やタイヤブランコなどでいっぱい遊びました。



ホクホクの焼いもが出来上がり、皆であつあつ言いながらみんなで食べました。大きいお芋を全部食べた子どももいました。まだまだ寒い日でしたが、焼いもでホットすることができた一日でした。

2/18 (日) 町たんけん「野鳥観察」とこれまでの活動

2月18日、町たんけんは、6回目の活動として野鳥観察に行きました。石田駅で集合し、山科川をゆっくり北上します。冬は、木や草が枯れ、とても野鳥観察には見やすい時期です。それに、カモなどは繁殖期なのでオスの羽色もきれいです。



望遠鏡を覗かせてもらったり、川の上をフルスピードで飛ぶカワセミを見て、歓声をあげたり・・・野鳥は全部で18種類もみることができましたが、毎年必ず見るアオサギなどはいませんでした。

お昼は、あたたかなお日様のもと、折戸公園で食事をし、遊びました。午後は、山科駅に戻り、絵を描いたり、かるたあそびをしたりしました。

町たんけんこれまでの活動は・・・



9月は、東海道を歩きました。五条別れ付近から四宮のお地蔵さんあたりまで。當麻寺のご住職には、白い象さんに乗せて貰った人もいました。



11月は、9月の続きで、東海道を歩きました。日ノ岡のあたりで、牧場をなさっていたところで、昔は牛を17頭も飼っていた話などを聞かせて頂いたり、スタッフもビックリのお話を聞きました。

12月は、伏見稲荷登山。山科から山を越えて行きました。いつ見ても、千本鳥居はすごいなあってみんなおおはしゃぎ。帰りは、昔の東海道の話を聞き、六地蔵では山科川をみたり・・・。

1月は、みんなのリクエストN01だった清水焼の体験。ろくろでの作陶を見せて頂いたり、自分たちでお茶のお茶碗をつくったり。これで3月にはお茶を楽しみます。

第7回最終回は、3月20日(水祝)山科アスニー和室にて、9時30分から12時まで山科かるた会&終了式を行います。

3/20(水、祝)は午後13時30分から15時30分過ぎ、関係者が集まり、22年間の町たんけん活動の振り返りも行います。よろしければご参加下さい。

